

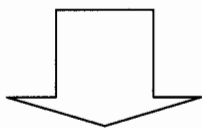
1 4歳児 年間の保育の基本構想

4歳児学年重点目標：友だちと一緒にいろいろな遊びを見つけたり、自分の力を試したりしていく。

学年経営について

一年間の生活のなかで培いたい心情・意欲・態度

- ① 教師や友だちに、自分の思いを素直に表現しようとする。
- ② 体を動かして遊ぶ心地よさを感じ、喜んで運動的な遊びに取り組もうとする。
- ③ いろいろな個性をもつ友だちがいることに気づき、誰とでもやさしい気持ちでかかわろうとする。
- ④ 基本的な生活習慣を身につけ、自分のことは自分でしようとする。



そのために大切にしたいこと

① について

- スキンシップをしたり、会話を楽しんだり、一緒に遊んだりして心をつなぐことで、教師との信頼関係を築き、一人一人が安心して自己発揮できるようにしていく。
- 一人一人のありのままの姿を受けとめ、その子なりの感じ方や表現の仕方を理解していく。

② について

- 学年の合言葉「ぴかぴかハート」を生活の中に位置づけ、発達段階に添った支えをしていくことで、体を動かして遊ぶ楽しさが味わえるようにしていく。
- 挑戦してみたくなるような環境の構成をし、楽しく安全に遊べるようにする。
- 子どもの考えを引き出しながら、一緒に遊びの場を作っていく。必要に応じて遊びの紹介をしていき、積極的にチャレンジする気持ちをもって遊べるようにする。
- 自己実現が可能になるための補助材料の準備をし、遊びの進み具合を見計らって段階的に援助していく。
- 「もっとやってみたい」という気持ちになるように、子どもの素朴な挑戦を認め、「できた」という満足感を味わわせる。
- みんなで一緒に集団遊びやゲームをすることで、体を動かす楽しさや心が触れ合う喜びを感じさせていく。

③ について

- 一人一人と積極的にスキンシップを図り、自分は大切にされているという実感をもたせることで、情緒の安定につなげる。
- 集まりの場面で、自分の思いを言ったり、友だちの気持ちを聞いたりすることで、友だちの良さに気づいたり相手を認めたりすることにつなげていく。
- 絵本や紙芝居等で展開されるお話の世界に浸らせ、様々な感情を味わわせることで、他者への理解につなげていく。

④ について

- 「なぜ、そうすることが大切なのか」を、子どもにもよく分かるように伝え、自らやってみようとする気持ちの掘り起こしをしていく。
- やり方がわからない子どもには、やって見せたり手を添えたりして個別に対応し、次第に自分の力でできるように支える。できたらしっかりと褒め、「頑張ることの気持ちよさ」「できた喜び」を味わわせ、自信をもたせていく。

2 「ぴかぴかハート」の生活の構想

(1) キーワード「ぴかぴかハート」について

5月上旬に、子どもが遊びの中で、「今日はいっぱい遊んでいい気持ちだった。せんせい、見て！私の心が、ほら、ぴかぴかになったよ。」と話してくれた。この言葉には、子どもの喜びと満足感が感じられた。この言葉は同年代の子どもの心にもストレートに響き、誰にも受け止めやすい言葉であると思われ、学年の集まりの場で紹介した。すると子どもたちは「ぴかぴかかって、すてきだね。」「ぴかぴかハートだね。」と誰もが自分の言葉のように受け止めていった。

そこで、この「ぴかぴかハート」を4歳児の生活のめあてにふさわしい合言葉であると考え、年間を通して生活のキーワードとして位置づけることにした。

「ぴかぴかハート」とは、子どもたちが一生懸命活動し満足した心、何かに挑戦しようとする心、友だちを思いやる心等であり、子どもたちが活動の中で「ぴかぴかハート」という言葉を絶えず意識することによって、意欲や主体性、仲間意識、挑戦する力等を育てていきたい。「できる」「できない」ではなく、何かに対して前向きに挑戦していく気持ちに対して、「ハートがぴかぴかしているね」と十分に認めていくことで、毎日の生活が楽しく充実したものになるようにしていきたいと考えている。

(2) 「ぴかぴかハート」の年間の構想

月	期	キーワード	ねらい
4	1期	みてみてぼくのわたしのぴかぴかハート	<ul style="list-style-type: none"> 先生や友だちに親しみ、園生活に慣れる。 興味、関心のある遊びを見つける。
5	2期		<ul style="list-style-type: none"> 気に入った遊びや友だちを見つける。 自分の思いを表す。
6	3期	ぞ！ぴかぴかハートでチャレンジするぞ！	<ul style="list-style-type: none"> 遊びに必要なものを見つけようとする。 自ら環境に関わり、興味や好奇心をもつ。 気に入った友だちと一緒に遊ぶことを楽しむ。 いろいろな運動に自らチャレンジしていこうとする。 自分のイメージをもって、みつけた遊びに取り組む。
7			
9			
10	4期	ぴかぴかハートを大きくするぞ！	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りの素材を、自分の遊びに取り入れようとする。 自分の力を試したり遊びの工夫をしたりして取り組む。 自分に自信をもち、自分の力でやってみようとする。 友だちと一緒に楽しく挑戦する。 友だちが頑張っている姿を応援しようとする。 イメージのあるごっこ遊びを友だちと一緒に楽しむ。 いろんな友だちに関心を向け、遊びに参加していく。 学級の仲間と集まりの中で話題を共有しようとする。
11			
12			
1			
2	5期	ぴかぴかハートを光らせよう！	<ul style="list-style-type: none"> できるまで頑張ろうとする。 友だち同士励まし合う。 自分の思いを自分なりに話す。 友だちの言葉や思いに耳を傾ける。 問題を自分なりに解決しようとする。
3			

3 4期の生活の構想と環境構成・援助 ～「喜んで体を動かす体験を豊かにする」面から～

(1) 4期「ぴかぴかハートを大きくするぞ！」の構想

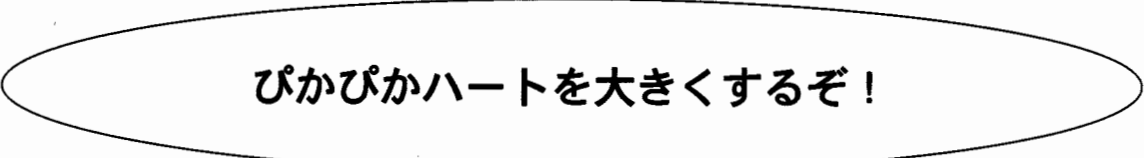
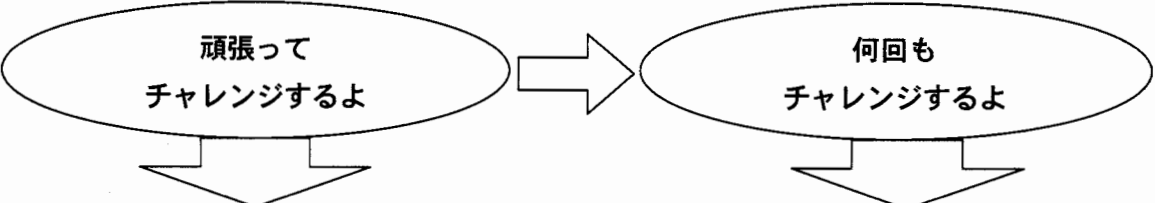
入園当初の子どもたち(1期)は、教師や友だちに親しみをもちながら、「幼稚園っていいな」と感じ、安定した気持ちで幼稚園生活のスタートを切った。そして、幼稚園生活への期待感を膨らませた2期では、気に入ったことや気の合う友だちを見つけては自分の思いを出して遊び始め、「明日もまた幼稚園で遊びたいな」という気持ちをもって生活をしてきた。

3期では自ら身近な環境にかかわり、いろいろな遊びにチャレンジしながら友だち関係を広げていった。その中で、体を動かして遊ぶおもしろさや友だちと一緒に同じ動きをして遊ぶ楽しさを感じたり、いろいろな動きができるようになったりしたことで培われた自信が、子どもたちの心の中に芽生えてきた。

そこで4期では、「ぴかぴかハートを大きくするぞ！」を合い言葉にして、次のような子どもの姿を目指していきたいと思う。

- ①自分なりのめあてをもち、自分の力を試したり遊びを工夫したりして遊ぶ。
- ②少し難しいことでも、友だちと一緒に頑張ろうとする。

また4期は、10月上旬から2月上旬と長いスパンであることから、時期的に季節の移り変わりも大きく、子どもの経験する内容が幅広く多様であることから、この期を2つに区切り、次のように保育の展開を計画した。

4期		
月	10月上旬～12月上旬(前半)	12月中旬～2月上旬(後半)
合言葉		
キーワード		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・めあてをもってチャレンジする。 ----- ・友だちと誘い合ってチャレンジする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちと助け合ってチャレンジする。 ----- ・できるようになりたいという気持ちで繰り返しチャレンジする。
援助	<ul style="list-style-type: none"> ○一人一人の思いや、発達の段階を考慮した支えに心がけ、その子なりのチャレンジや素朴なチャレンジを十分に認め褒めていく。 ○友だちとのかかわりも広がったり深まったりする時期なので、心の触れ合う場面での声かけをして、望ましいかかわりにつなげていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「できるようになりたい」という思いを大切に、実現できるような環境構成や声かけを工夫することで、「できた」という喜びがもてるようにしていく。 ○友だちと一緒にチャレンジする姿の中で、「頑張って」と応援したり、そっと手を添えたりしていくかかわりを認めていく。

(2)各クラスにおける4期前半の環境の構成と援助

①さくら組

10月に入り、「ブランコを高く漕ぎたい」「○ちゃんみたいに鉄棒で回れるようになりたい」等、自分なりのめあてをもって遊ぶ姿が増えてきた。友だちの姿に触発されて「自分もできるようになりたい」という気持ちが芽生えてきている。そこでこのタイミングを捉え、めあてをもって挑戦しようとする姿を期待したい。

また、ごっこ遊びの中で子どもたちが自然に見せる、「投げる・跳び降りる・走る・蹴る・ぶら下がる」等の動きを、さらになめらかな動きにさせていきたい。

○4期前半の環境の構成と援助

- ・進んで体を動かしたり、挑戦したりする意欲を、「ぴかぴかハートが大きくなってきたね」と認める。
- ・「できるようになりたい」という気持ちを大切に、動きのきっかけになる言葉をかけたり、手を添えたりして、実現するまで支えていく。
- ・友だちと一緒に楽しむ「ごっこ遊びの世界」を大切にしながら、その中で表現される動きを教師が言葉にしたりその動きをやって見せたりして、ぎこちない動きからなめらかな動きになるように支えていく。
- ・チャレンジする友だちを応援したり、手助けしたりする姿が見られれば、その姿を「ぴかぴかハートだね」と認め、優しい気持ちが育つようにしていく。

②たんぼ組

10月上旬より、ブランコや回旋塔などの固定遊具に積極的にかかわる姿が増え、その中で高く漕ぐやり方や高いところに上って回るなど、1学期には見られなかった“自分たちなりにチャレンジする姿”が見られるようになった。そのきっかけとして、友だちがしている姿を見たり、年長さんが教えてくれたりすることで、「自分もやってみよう」という気持ちが芽生えたのではないかと感じた。

また、数人の友だちと簡単なルールのあるおにごっこを楽しむようになったり、虫とりや木の実拾いをするために園庭を走り回ったり等、積極的に体を動かして遊ぶ姿も見られるようになってきた。

○4期前半の環境の構成と援助

- ・子どもたちが積極的に体を動かして遊ぶ姿を「ぴかぴかハートが大きくなってきたね」と認める。
- ・友だちの姿に触発され、「やってみたい」と心動かし姿を受け止め、思う存分チャレンジできるように声かけをする。
- ・チャレンジしようとする友だちを応援したり、手助けしたりする姿が見られれば、その姿を「ぴかぴかハートだね」と認め、優しい気持ちを大切にしていく。
- ・教師も一緒になって体を動かす遊びを楽しみながら、子どもがやろうとしている動きを言葉や動作で表していく。

4歳児 さくら組 生活の構想

指導者 加納美紀 〈学級色：桃〉

在籍 19名（男児9, 女児10）

4 4期（4歳児10月上旬～2月上旬）の生活の構想

(1) 子どもの姿

〈生活全般の様子〉

- 幼稚園で安定して過ごし、周りの環境に働きかけて、自分のしたい遊びを楽しんでいる。
- 教師が投げかけたクラス的话题を、自分のこととして考える姿が見られるようになり、学級の一員である意識が芽生え始めている。

〈遊びへの取り組み〉

- ジャンプ台やアスレチック、築山、園庭の木々等、周りの環境を遊びに取り入れ、ヒーローごっこや家族ごっこ等、イメージの世界を楽しみながら遊んでいる。その中で、「爆弾投げ」や「跳びっこ」等、いろいろな動きに挑戦している。
- 鉄棒の前回りや3人乗りブランコ、自転車のスピード乗り等、今までしたことのない遊びにも進んで挑戦しようとしている。
- 園庭で集めたドングリを数えたり、絵を描いたり、イチヨウの葉っぱでご馳走作りをしたり等、自然物を使った遊びを楽しんでいる。

〈友だちとのかわり〉

- 友だちと誘い合って遊んだり、言葉を交わしながら一緒に遊びを楽しむ姿が見られる。トラブルの場面では、教師が仲立ちとなってお互いの気持ちを伝えていくと、相手の気持ちが理解できるようになってきた。
- 乱暴な言動をする友だちに対しては、その子の気持ちを理解しようとしている。

**体を動かすって
気持ちいい!**

・いろいろな動き
にチャレンジ
〈意欲・挑戦〉

4期

大切にしたい
生活のテーマ

**ぴかぴかハートを
大きく
するぞ!**

**友達と一緒に
楽しいな!**

・気持ちが通じ合
ううれしさ
〈仲間意識〉

(2) 4期の生活で期待する姿

- いろいろな材料や自然物を見つけ、遊びの内容に応じてとり入れて遊ぼうとする。
- 自分の力を試したり、遊びをおもしろくするための工夫をしたりしながら遊びを続けていこうとする。
- 数人の友だちとイメージや願いを出し合ったり共有したりして遊ぶ。
- 同年齢・異年齢のいろいろな友だちへ関心を向けて、遊びの場に参加していく。
- 学級の仲間としての気持ちをもつ。
- トラブルなどを通して友だちの気持ちを受けとめたり、自分たちで問題を解決しようとしたりする。
- 自分に自信をもち、いろいろなことを自分の力でやってみようとする。

〈4期の生活の主な内容〉

- ・のびのびと運動的な遊びをする。
- ・イメージのあるごっこ遊びをする。
- ・自分の力を試したりできないことに挑戦したりする。
- ・運動会にかかわる活動をみんなと一緒にする。
- ・子どもまつりにかかわる遊びをする。
- ・集団遊びをする。
- ・季節にちなんだ遊びをする。

(3) この期で大切にしたい保育の姿勢

- 一人一人の「やってみたい」「できるようになりたい」という思いを大切に受け止め、実現できるような環境作りをしたり、動きのきっかけになる言葉をかけたりして、「できた」という喜びや満足感を感ぜられるように支える。
- 子どもの頑張っていることを、学年のキーワードである「ぴかぴかハート」として価値づけ、「何回も挑戦しているからハートがどんどん大きくなっていくね」等、具体的に認めていくことで、自信を持って生活できるように支えていく。
- イメージを共有して遊べるように、自分の思いを言葉で伝えようとする姿を見守りながら、言葉が足りない場合にはお互いの気持ちがつながるように言葉を添えたり、伝え方を知らせたりしていく。
- トラブルの場面では、教師が間に入り、お互いの思いを受け止め、じっくりと聞くことで、相手の思いにも気づくことができるようにしていく。

5 本日の生活について

(1) 本日のねらい

○自分のしたい遊びをする中で、「ハートを大きくしたい」という気持ちで自分の力を試したり、いろいろな動きにチャレンジしたりして遊ぶ。

○同じ場で遊んでいる友だちと、自分の思いや考えを出し合いながら遊ぶ。

(2) 予想される生活の展開 ※○ 経験してほしい内容 [] 援助 【 】 幼稚園教育要領のねらい

8 : 45 登園

↓

9 : 00 シール貼り

↓

・登園してくる一人一人を温かく迎え入れ、元気に挨拶を交わしながら、今日の遊びに意欲がもてるような声をかけていく。

自分でみつけた遊び	いろいろな動きにチャレンジして遊ぼう！	秋の自然物に親しんで遊ぼう！	
	<ul style="list-style-type: none"> ○木登り <ul style="list-style-type: none"> ・竹をつたって登る。 ・登り方を考えて試す。 ○自転車乗り <ul style="list-style-type: none"> ・スピード乗り。 ・新しいコースで乗る。 ○うんてい <ul style="list-style-type: none"> ・1つ飛ばしで渡る。 ・最後まで渡る。 ○ブランコ <ul style="list-style-type: none"> ・3人乗りをする。・飛び降りをする。 <p>【健康 1・2】【人間関係 1・2】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ヒーローごっこ ○家族ごっこ ○警察ごっこ <ul style="list-style-type: none"> ・強いヒーローになるために体を鍛える。 ・遊びに必要なものを作る <p>【健康 1・2】 【人間関係 1・2】 【環境2】 【言葉1】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○自然物を使ってのご馳走作り ○木の実や落ち葉集め <ul style="list-style-type: none"> ・数を数えたり、並べたり、形を作ったりする。 ・飾りを作る。 ○木の実に絵を描く ○木の実転がし <p>【環境1・2】【表現1・2】</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の「できるようになりたい」という思いを受け止め、「手を前に出してごらん」と方法を伝えたり、「あと少しでゴールだよ」と励ましたりして子どもの願いが実現するように支える。 ・コーン、テープ等の遊びに必要な材料を準備し、挑戦意欲をもって取り組める環境構成をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「おもしろい跳び方だね」等、子どものアイデアをしつかりと認め、満足感が得られるようにすると共に、場を共有する子どもが同じイメージで体を動かす遊びを楽しむことができるようにする。また、トラブルでは、仲立ちをしながら、思いを出させていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スズカケや銀杏の葉、ドングリ等、園庭の自然に関わって遊ぶ中での子どものつぶやきや発見に耳を傾け、季節を感じていることに共感する。 ・描く、転がす等いろいろな遊びを考えて楽しめるようマジックや雨樋、カップ等が自由に使える環境を準備する。

10 : 10 整頓・片付け

↓

・「みんなでパスパス片付け始めるよ～」と声をかけ、友だちと楽しく片付けができるようにする。
 ・片付けに気持ちを向けにくい子には、「○個、見つけてきてね」と気持ちを向けさせる声がけをする。

10 : 20 みんなで今日の遊びについて、話したり聞いたりする

↓

・子どもたちがチャレンジした「ぴかぴかハート」をクラスの話にし、一人一人のチャレンジを認め、満足感をもたせ、明日への遊びの意欲につなげる。

10 : 45 降園

4歳児 たんぽぽ組 生活の構想

指導者 名越絵美 〈学級色：黄〉

在籍 20名(男児10,女児10)

6 4期(4歳児10月上旬～2月上旬)の生活の構想

(1)子どもの姿

〈生活全般の様子〉

- 幼稚園で遊ぶことを楽しみ、自分らしさを存分に発揮して園生活を送っている。
- 集まりの場面では、今日の生活について話したり、聞いたりすることで、クラスの友だちのことを知ろうとする姿が見られている。

〈遊びへの取り組み〉

- ブランコや回旋塔などの固定遊具を使って遊ぶことを楽しんでいる。また、虫に興味を持っている子どもが多く、園庭を走り回って虫を探したり、捕まえたりして遊んでいる。
- 年長児の姿に触発され、鉄棒やうんてい等、今までやったことのない遊びにチャレンジしたり、「もっとできるようになりたい」という思いをもって、少し難しいことにも挑戦したりする姿も見られている。

〈友だちとのかわり〉

- おにごっこ等の簡単なルールのある遊びを通して、これまでかかわることの少なかった友だちと交わり、学級の色々な友だちにかかわる姿が見られている。
- トラブルの場面では、友だちに自分の気持ちを上手く伝えることができず、涙が出てしまう子が多い。だが、教師が仲立ちとなり、お互いの気持ちを伝えていくことで、友だちの気持ちを知ったり、自分の思いを伝えたりすることができつつある。

**体を動かすって
気持ちいい!**

・いろいろな動き
にチャレンジ
〈意欲・挑戦〉

4期

大切にしたい
生活のテーマ

**びかびかハートを
大きく
するぞ!**

**友達と一緒に
楽しいな!**

・気持ちを通じ合
ううれしさ
〈仲間意識〉

(2) 4期の生活で期待する姿

- いろいろな材料や自然物を見つけ、遊びの内容に応じてとり入れて遊ぼうとする。
- 自分の力を試したり、遊びをおもしろくするための工夫をしたりしながら遊びを続けていこうとする。
- 数人の友だちとイメージや願いを出し合ったり共有したりして遊ぶ。
- 同年齢・異年齢のいろいろな友だちへ関心を向けて、遊びの場に参加していく。
- 学級の仲間としての気持ちをもつ。
- トラブルなどを通して友だちの気持ちを受けとめたり、自分たちで問題を解決しようとしたりする。
- 自分に自信をもち、いろいろなことを自分の力でやってみようとする。

〈4期の生活の主な内容〉

- ・のびのびと運動的な遊びをする。
- ・イメージのあるごっこ遊びをする。
- ・自分の力を試したりできないことに挑んだりする。
- ・運動会にかかわる活動をみんなと一緒にする。
- ・子どもまつりにかかわる遊びをする。
- ・集団遊びをする。
- ・季節にちなんだ遊びをする。

(3) この期で大切にしたい保育の姿勢

- 少し難しいことにチャレンジしたり、「もっとやってみよう」という思いで挑戦する姿を、学年のキーワードである「びかびかハート」として認め、挑戦する意欲を掻き立てていく。
- 集まりの中で、一人一人の「チャレンジした遊び」を受けとめ、認めていくことで、「チャレンジしてよかったな」という思いを感じさせたい。また、その話を聞いて「自分もチャレンジしてみよう」と周りの子どもたちにも挑戦意欲が湧くよう、「チャレンジした遊び」を価値づけていく。
- 友だちと一緒に遊ぶ楽しさを味わわせ、イメージを共有して遊ぶ姿を支えていく。その中で、友だちと衝突する場面があれば、それぞれの思いを受けとめ、お互いに思いを伝えていけるよう援助していく。

7 本日の生活について

(1) 本日のねらい

○自分のしたい遊びをする中で、「ハートを大きくしたい」という気持ちで自分の力を試したり、いろいろな動きにチャレンジしたりして遊ぶ。

○同じ場で遊んでいる友だちと、自分の思いや考えを出し合いながら遊ぶ。

(2) 予想される生活の展開 ※○ 経験してほしい内容 [] 援助 【 】 幼稚園教育要領のねらい

8 : 45 登園

↓

9 : 00 シール貼り

↓

・登園してくる一人一人を温かく迎え入れ、元気に挨拶を交わしながら、今日の遊びに意欲がもてるような声をかけていく。

いろいろな動きにチャレンジして遊ぼう！

秋の自然物に親しんで遊ぼう！

自分でみつけた遊び

○地球回り

・友だちと一緒に乗る。
・飛び乗ったり、高いところに乗ったりする。

○ブランコ

・2人乗りをする。
・立ち漕ぎでめあてをもって漕ぐ。

○うんてい

・最後まで諦めず渡る。
・一つ飛ばしをする。

【健康 1・2】

【人間関係 1・2】

○ジャンプ台

・高く跳ぶ。
・着地の仕方を考えて跳ぶ。

○跳び箱

・跳んだり、上って跳び下りたりする。

○縄跳び

・回数を数えて跳ぶ。
・いろいろな跳び方で跳ぶ。

【健康 1・2】

【人間関係 1・2・12】

○どんぐり

・どんぐりを集めて、転がしたり、飾りを作ったりする。

○スズかけの実

・実を集めたり、実を採るために竹登りをしたりする。

○落ち葉

・落ちている葉っぱを集め、ごっこ遊びに取り入れる。

【環境 1・2】

【表現 1・2】

・友だちと一緒にチャレンジする姿や友だちにやり方を教える姿を「びかびかハートだね」と認める。
・子どもの「こうしてみたい」という思いを汲み取り、言葉で伝えていくことで子どもの思いを実現できるように支える。
・めあてをもって取り組めるようにうんていに目印をつけたり、ブランコの前に鈴をもってきたりするなどの環境構成をする。

・いろいろな跳び方やいろいろな着地のポーズをする姿を認め、もっと発想が出てくるように手足の動かし方を言葉で伝えたり、して見せたりしてイメージができるようにする。
・子どもたちの「もっと高くしたい」という要求にも答えられるように、跳び箱を準備しておく。

・子ども自らの気づきや発見に教師も共感し、季節の深まりを感じられるような言葉かけをしていく。
・どうしたら木の実が採れるかを一緒に考え、子どもの発想を受け止め、実現できるように一緒に考えていく。
・たくさん自然物を集めることができるように、カップや袋などを用意しておく。

10 : 10 整頓・片付け

↓

・「みんなでパスパス片付け始めるよ」と声をかけ、友だちと楽しく片付けができるようにする。
・片付けに気持ちを向けにくい子には、「落ちているもの○個、見つけてみようか」と声をかけ、片付けに気持ちが向くような声をかける。

10 : 20 みんなで今日の遊びについて、話したり聞いたりする

↓

・一人一人がチャレンジした遊びをクラスみんなに話したり、聞いたりする。
・チャレンジした遊びを受けとめ、「びかびかハートだね」と認めていくことで、「チャレンジしてよかったな」という思いを味わわせるとともに、次の日からの遊びへ繋げていけるような言葉をかける。

10 : 45 降園